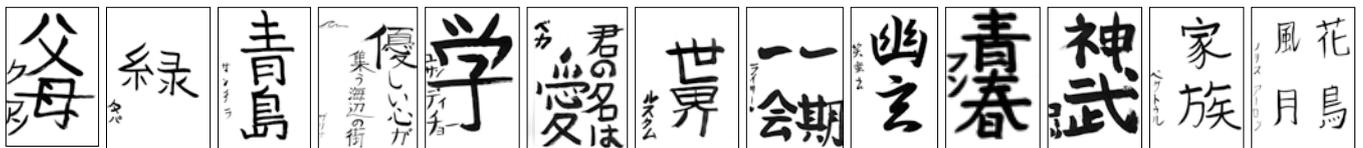
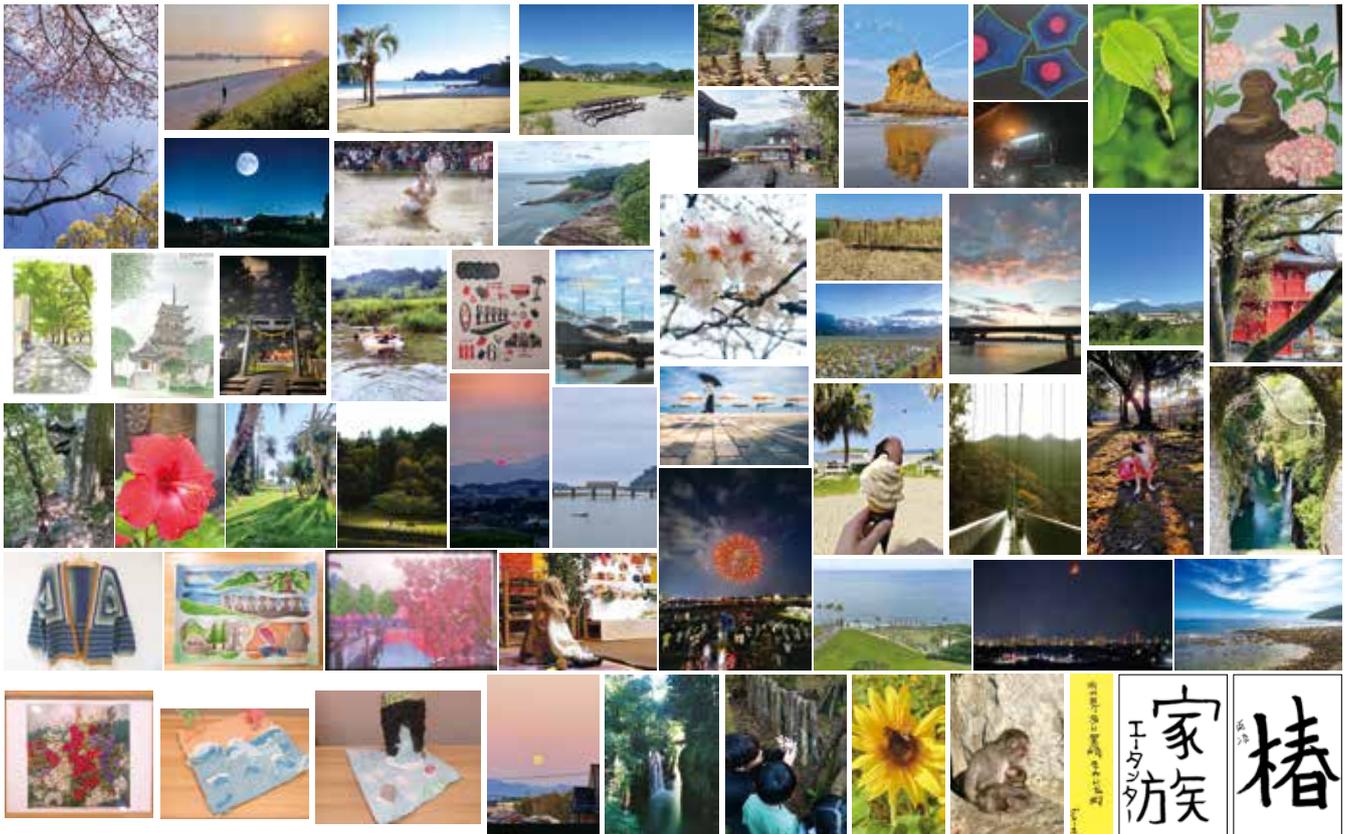


South Wind

サウスウィンド Mar. 2026 Vol.108

特集

The 20th Art Festival "Miyazaki-From the Outside Looking in"
第20回アートフェスティバル「外国人が見た宮崎」作品展



Contents/ 目次

特集 第20回アートフェスティバル
「外国人が見た宮崎」作品展 2,3

多文化共生社会をめざして 4

外国人災害サポートボランティア養成講座 in 宮崎市
Hear! Here Voices
袖木崎 真美 さん(タンザニア出身) 5

JICAデスク宮崎より「アマクル?」 6

宮崎県国際交流協会ニュース 7

INFORMATION 8

今年で20回目を迎えたアートフェスティバル「外国人が見た宮崎」作品展では、「宮崎」をテーマに、外国人の皆さんが写真・絵画・書道・手工芸など多彩なアート作品を出展しました。作品には、宮崎や母国への想いがつづられたキャプションが添えられ、足を止めてじっくりと読み入る来場者の姿も多く見られました。



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<https://www.mif.or.jp>



2025 20th Annual ART FESTIVAL

特集

“Miyazaki-From the Outside Looking in”

第20回 アートフェスティバル 「外国人が見た宮崎」作品展

宮崎在住の外国人の皆さんが感じた宮崎への印象や想いをアートで表現した作品展も、今年で20回目を迎えました! 今年、18か国出身の45名から、写真41点、絵画6点、書道16点、手工芸6点の作品が寄せられました。来場者による投票(569票)の結果、各部門の最優秀賞作品が決定しましたのでご紹介します。



写真部門 『秋の月』 ソン ヨンジュさん 韓国出身

「暗く静かな街に響く虫の声と世を照らすお月様。」(作品キャプションより)



■どうして作品展に応募しようと思いましたか?

都城市役所でこの作品展があることを知り、会社の同僚にも勧められて、応募してみました。1月にカメラを始めたばかりでしたが、データを送るだけで簡単に応募できますし、良い経験になると思い、チャレンジしました。

■大きな月がとても幻想的な写真ですが、どこで撮った写真ですか?

9月に、都城歴史資料館で開催された「月見会」というイベントで撮りました。実はこの日は満月ではなく、左側が少し欠けていたんです。それがとてもいい味を出していると思いました。

■カメラを始めたきっかけを教えてください。

1月に、写真が趣味の会社の方からカメラをいただいたことがきっかけです。それからすぐに写真にハマってしまい、今ではレンズを集めたりして本格的に撮影しています。人物を撮るのが好きで、9月に韓国へ一時帰国した際には両親の写真を撮り、サプライズで額に入れてプレゼントしたところ、とても喜んでもらえてうれしかったです。海や森などの風景を撮るのも好きで、金御岳公園からの景色は特にお気に入りです。今は宮崎の四季それぞれの写真を撮っていて、それらをまとめ、美術展に出すことを目標にしています。



■ヨンジュさんにとって宮崎はどんな場所ですか?

都城に住んで8年になりますが、のんびりしていて心が落ち着く、私にとって自分らしくいられる場所です。盆地まつりで韓国の文化を紹介したり、韓国料理教室の講師を務めたり、ドラムも習っていて、今度は発表会もあります。地域の皆さんと関わりながら、この先も長く住むことができたらうれしいです。



絵画部門 『楠並木通り』 ケイティ ケスラーさん イギリス出身

「毎朝の出勤で見る街路です。日常の場面ですが、晴れた日の楠の木漏れ日は本当に美しいです。宮崎に住んでいることへの感謝をよく感じるのは、この通りを歩いているときです。」(作品キャプションより)



■どうして作品展に応募しようと思いましたか?

もともとアートが好きで、水彩画を描いていた時期がありました。最近水彩画を再開したこともあり、今回挑戦してみようと思いました。また、テーマが「外国人が見た宮崎」だったので、宮崎に住む外国人の一人として何か表現できればと思いました。

■楠並木通りを描こうと思ったのはどうしてですか?

楠並木通りは通勤路で、私の日常の風景の一つです。平凡な風景かもしれませんが、木漏れ日が本当に美しく、私にとっては特別で大切な場所です。水彩で描けばきっと素敵な作品になるだろうと思いました。

■普段はどのような絵を描いているのですか?

頻繁に絵を描いているわけではありませんが、水彩画で人物を描くのが好きです。自分の好きなものからインスパイアされて描くことが多く、以前はビートルズをモチーフにしたタロットカードをデザインしたこともあります。次は、大好きなプロレスラーたちの顔を描いたタロットカードを作成しようと思っています。

■ケイティさんにとって宮崎はどんな場所ですか?

宮崎は、人も気候も明るく温かいところです。住み始めて1年半以上が経ち、生活にもすっかり慣れて、とても住みやすい場所だと感じています。週末には、お気に入りのカフェでカプチーノを飲みながら読書をするのがルーティーンになりました。宮崎は私にとって、初めて社会人として自立し、一人暮らしをした特別な場所です。宮崎に住むことになったのは偶然ですが、いつか離れる時が来たら、とても寂しくなると思います。



書道部門 『幽玄』 ゲツ エヴァンさん アメリカ出身

「宮崎には、言葉ではうまく説明できないけれど、なぜか心惹かれてしまう、美しく神秘的な場所がたくさんあります。そうした説明のつかない感情は、感じるたびに初めてのように新鮮で、本当に素晴らしいものです。宮崎という場所は本当に幽玄です。」(作品キャプションより)



■去年に引き続き、2回目の受賞ですが、いかがですか？

まさかまた受賞できるとは全然思っていなかったので、とても驚きました！

■宮崎を「幽玄」という言葉で表現しようと思ったのはどうしてですか？

大学生の時に文学を専攻しており、詩や物語を書く勉強をしていました。そんな中で日本や日本語に興味を持ち、いろいろ調べていくうちに、日本語には、言葉で説明するのが難しい日本の美意識を表す、意味の深い表現が多くあることに気づきました。その一つが「幽玄」です。宮崎には、言葉では言い表せない神秘的で美しい場所がたくさんあると感じています。

■書道を始めたきっかけを教えてください。

和楽器や日本の伝統文化に興味があり、書道を始めました。会社の上司が書道教室を探してくれ、2年半ほど通っています。昨年は楷書の作品を出展しましたが、今年は行書に挑戦しました。楷書は形が整った「お手本」のような書体ですが、行書は自分の感情を込めて自由に表現でき、より芸術的で好きな書体です。

■エヴァンさんにとって宮崎はどんな場所ですか？

出身がフロリダなのですが、今住んでいる日向も海沿いで、どこか雰囲気が似ているんです。都会の賑やかさはありませんが、落ち着いていてとても住みやすく、大好きな場所です。仕事の関係で日向に住むことになり、気づけばもう5年半が経ちました。老若男女問わず知り合いもたくさんでき、方言も大好きです。「まこつか!」や「とんびまんび」(読んでいる方、意味がわかりますか?)など、方言を話すことで、地域の皆さんとの距離がぐっと近くなり、より親しみを持ってもらっていると感じます。



手工芸部門 『宮崎の旅:風景・遺産・味』 チャネタ ナイラ プラヨゴさん インドネシア出身

「宮崎は、穏やかなビーチから緑豊かな山々まで、美しい風景にあふれています。日南では、巨大なモアイ像が海を見つめるサンメッセ日南からの景色がひととき輝いています。宮崎大学での日々は、学びと友情に満ちています。そして、新鮮で美味しいお寿司が、この旅を完璧なものにしてくれます。」(作品キャプションより)



■どうして作品展に応募しようと思いましたか？

父が宮崎大学で研究をしていた関係で、小学生のときに宮崎に3年間住んでいました。今回、知人からこの作品展のことを聞いたとき、昔この作品展に絵画を出展して最優秀賞を受賞したことを思い出したんです。それで、もう一度挑戦してみようと思いました。物を作ることが好きなので、今回は手工芸の部に応募することにしました。

(スタッフも、以前チャネタさんが同作品展で賞を取られていたことを初めて知り、驚きました!)

■どうしてこの作品を作ろうと思ったのですか？

私は宮崎の空が大好きなんです。そこで、作品の上半分には宮崎の空とサンメッセのモアイ像を描きました。左下には現在通っている宮崎大学を、右下には大好きなお寿司を描き、立体的に表現しました。この作品には、私が好きな宮崎が詰まっているんですが、実は、宮崎に来てまだ1週間しかたっていない頃に作りました!

■物作りが好きとのことですが、普段は主に何を作っているのですか？

特に編み物が好きで、帽子やバッグ、あみぐるみなどをよく作っています。インドネシアでは今、編み物で花を作るのが流行しているんですよ。



■チャネタさんにとって宮崎はどんな場所ですか？

自然が多く、人も多すぎず、落ち着いた場所で、空もきれいで、人も優しく、とても暮らしやすいです。現在は、小学生のときに住んでいた地域に暮らしているのですが、当時とほとんど変わってなくて、なんだかほっとしました。通っていた小学校にも足を運んでみて、とても懐かしい気持ちになりました。宮崎の自然の中で青島が特に好きなのですが、帰国するまでに高千穂にも行ってみたいと思っています。

作品展の来場者より、様々なご感想をいただきました! その一部をご紹介します。

- ・どの作品も本当に素晴らしく、想いが込められていて、それぞれの味がありました。素敵な作品をありがとうございます!
- ・見慣れた景色でも、外国人の方の目を通して描かれると新鮮に見えるのが良かったです。
- ・どれも素敵な作品ばかりでした。外国の方に地元・宮崎を好きになってもらえてうれしいです。
- ・ウクライナの方が撮った月の写真を見て、戦争のない日本だからこそ安心して月を眺められるのだと改めて感じました。
- ・宮崎の景色を見て、何かを感じ、シャッターを押してくださったことをとても喜ばしく思いました。日本を楽しんでください!



多文化共生社会をめざして

【外国人災害サポートボランティア養成講座 in 宮崎市】

本講座は、災害が発生した時に予想される外国人の状況について基礎的な理解を深め、避難所等で孤立する外国人住民への声かけやニーズの拾い上げを行い、解決に向けたサポートを担うことのできる人材を育成することを目的に開催しました。

講師には、2016年の熊本地震や2019年と2021年の佐賀豪雨で外国人支援活動に従事されるなど豊富な経験を持っておられる矢富 明徳氏（(公財)佐賀県国際交流協会 企画交流課長）をお招きし、全3回の講座を通し、災害時の外国人支援に必要な知識や心構えを学びました。

第1回 「多文化防災について」 日時：10月18日（土）

外国人防災に関する基礎知識や外国人住民が直面する課題を学びました。「避難所での出来事から考えてみよう」というグループワークを行い、「日本人」と「外国人」との間の問題をテーマに意見を出し合いました。



第2回 「日本語しか話せなくてもできる外国人支援」 日時：10月25日（土）

災害時に役立つ「やさしい日本語」や翻訳アプリの活用など外国人支援の方法を学ぶとともに、グループワークでは避難所で実際に貼られた掲示物の内容を外国人住民へ分かりやすく示す方法を検討しました。



第3回 「避難所巡回訓練（外国人住民への聞き取り）」 日時：11月8日（土）

宮崎市、宮崎大学、JICA九州と協力して開催しました。災害サポートボランティア養成講座の受講者が運営側、外国人参加者が避難者側の立場でロールプレイを行い、実際に外国人が避難所へ避難した際の聞き取りを想定した訓練を行いました。



外国人災害サポートボランティアを募集中です

(公財)宮崎県国際交流協会では、災害発生時に避難所等で外国人をサポートするボランティアを募集しています。

詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://www.mif.or.jp/volunteer/support-volunteer/>





Hear! Here Voices



柚木崎 真美さん

タンザニア連合共和国出身

宮崎市にあるタンザニア連合共和国の雑貨店「Kilimanjaro」で勤務、商品の仕入れから接客までこなす。英語、スワヒリ語、日本語を話すトリリンガル。

コンプレックス

言葉が一番コンプレックスでした。家の中はスワヒリ語、それ以外は英語が中心の生活でした。日本に来て初めて日本語を聞いた時のことは今でも鮮明に覚えています。呪文にしか聞こえない日本語に、カルチャーショックを受けました。そして、宮崎に引っ越してきておばあちゃんと初めてしっかりコミュニケーションをとった時に、おばあちゃんの話す宮崎弁が分からなくて、第二のカルチャーショックを受けました。幼少期は日本語が分からなくて嫌でしたが、成長すると家の外でスワヒリ語が使われるのが、周りの注目を集めるので嫌だと感じるようになり、英語も使わないようにしていました。

生い立ち

生まれはタンザニア連合共和国、育ちは宮崎県です。5歳の時に日本に来て、1年間千葉県に住んで、7歳の時にお父さんの地元である宮崎市に引っ越してきました。



さよなら、宮崎

世界とは何だ！言語とは何だ！コンプレックスからくる学びへの探求心から、言語学や世界の文化を学べる学部・大学へ進学するため宮崎を離れました。



お勧めの一冊



お気に入りの場所

家族の絆

両親が学校の先生方としっかりコミュニケーションをとってくれたのと、お母さんがタンザニア連合共和国のことを知ってもらう活動をして、周りの理解を得ていました。お母さんからは、誰もが外国にルーツを持っているわけではなくて、それはスペシャルな事だよ、と言われていました。思春期の時は分からなかったお母さんの気持ちや言葉が、今はすごく響いていて、自分のルーツを伝える活動をした方がお母さんも嬉しいだろうし、自分の為でもあると思っています。



タンザニア連合共和国は、やさしく温厚な性格の人が多いです。日向時間に似たような時間感覚があり、スワヒリ語でポレポレ(ゆっくり)なマインドで皆が穏やかに過ごしています。

ポレポレ

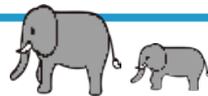
高2の転機

ソフトテニス部で、高校2年生の時にキャプテンに選ばれました。同じく高校2年生の時に、英語の先生に推薦され、英語スピーチコンテストに出場し、やらざるを得ない状況になることで、人前で話す事も増え、だんだん自分に自信ができました。

注目の的

宮崎市では、当時国際結婚をした人が地域におらず、ハーフの子も私たち姉弟だけで、教室まで上級生が私の事を見に来ていました。でも、小学校は人数が少ない事もあり、お互いを知って友達になるのは早かったです。

将来像



雑貨屋は、宮崎をベースにしてイベント出店で県外に出たいと考えています。それとは別に、日本語教師になるための養成講座に通っています。大学在学中に、就職先の選択肢として日本語教師も視野に入れていたのですが、別の道に進み、今回、養成講座の締め切り前に知り合いの方に声をかけられて、これも何かの縁だと思いい講座を受講し、日本語教員試験に合格できるよう頑張っています。

現在のお仕事

お母さんが国際理解に関する仕事やタンザニア連合共和国の雑貨屋を営んでおり、以前から興味はありました。コロナ禍を経て、宮崎に戻ってきたタイミングでお母さんが休業していた雑貨屋を再開させ、それから一緒にお店を運営しています。国際理解に関するお仕事も、少しずつしています。画面の先で色々な国のことを知っていても、実際にその国から来た人やルーツがある人と会ってみると、また違う印象を抱くと思うんです。目を見て会話をしないと分からないことを伝える気持ちを大事に、活動しています。



多文化共生とは？

人間誰も誰かや何かと共生して生きていくと私は考えていて、例えばそれが自分の知らないものだったり、知識だったり、人だったりする事もあって、そこに気づけると、視野が広がるのではないのでしょうか？そして、その視野の広がりが多文化共生ではないかと考えます。そう考えると、多文化共生は「私の人生そのもの」ですね。



JICAデスク宮崎より

アマクル?

「アマクル?」は、東アフリカに位置するルワンダで話されているキニヤルワンダ語で「元気ですか?」の意味。



スポーツは世界共通で「言葉もいらない」
すぐ友達になれる最大のツール!



ルワンダは海がないので、手作りで波の装置を作って
生徒に教えているところ。

みなさん、はじめまして。今号から JICA ページを担当させていただく JICA デスク宮崎の梅村です。どうぞよろしくお願ひします。タイトルになっている「アマクル」のキニヤルワンダ語って、なかなか馴染みがない言語だと思います。そんな私も海外協力隊として、ルワンダに行くまでは、キニヤルワンダ語ってなんだ?とっていたひとりです。ルワンダは、アフリカ大陸の真ん中あたりにあり、パツと見た感じ「暑いのかな〜」「砂漠のかな?」と思うかもしれませんが、じつは標高が平均 1,600m もあり、年間を通して 25 度前後（涼しい!）とても快適で過ごしやすい国です。人はおおらかで（しかも、やさしく）そして、めっちゃ真面目なひとが多い。なんだか不思議だけど、きっと好きになる国、それがルワンダです。一度訪れると今までのアフリカのイメージをガラッと 180 度変えてくれる魅力的な国です。今年の春休み?夏休み?はルワンダへ、ぜひ! このページを通して、世界各地の魅力や国際理解、多文化共生、海外協力隊の活動など JICA の取り組みや国際協力についてご紹介していきます。

2025 年 11 月 JICA デスク宮崎に着任しました。

国際協力、国際理解教育、多文化共生などに取り組んでいます。ご相談、ご質問などお気軽にお問い合わせください。



海外協力隊に関するセミナー & 個別相談



多文化共生に関するシンポジウム



国際協力に関する講座



多文化共生 / 国際理解のワークショップ



配置先：〒 880-0805 宮崎市橘通東 4-8-1 カリーノ宮崎地下 1 階
（公財）宮崎県国際交流協会 JICA デスク宮崎
E メール：jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp
〒 889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
宮崎大学 国際連携センター JICA 宮崎大学デスク

個別相談はこちら



宮崎県国際交流協会ニュース



●次の講座を開催しました●

多文化共生講座

11月1日(土)に多文化共生講座「Mosaic Society 多文化がつくる新しい『ふつう』」を開催しました。

前半の外国人住民3名によるトークセッションでは、母国での生活や来日した理由、宮崎での暮らしの中で感じた課題や工夫、地域との関わりについてお話しいただきました。後半は、外国人住民と参加者によるグループトークを行い、国際交流や観光をテーマに意見を出し合いました。参加者にとって、異なる文化を持つ方とのコミュニケーションや協働の大切さを実感する時間となりました。



宮崎市地域日本語教室

11月22日(土)に宮崎市地域日本語教室を開催しました。5か国の外国人住民7名と日本語の学習支援を行う学習支援者8名の計15名が参加されました。

2つのグループに分かれ、「ひむかカルタ」という宮崎に関するカルタを行いました。支援者が順番に札を読み、学習者同士で絵札を取り合いました。

参加者同士で、日本語で宮崎に関する知識を交流しながら学びました。



ひなたにほんご交流会



11月29日(土)に第4回ひなたにほんご交流会を開催しました。日本語教師、日本語学習支援者、外国人の方をはじめ、これから宮崎の日本語教育に関わっていきたい方など、24名が参加しました。

基調講演では、特定非営利活動法人アジア女性自立プロジェクトの奈良雅美氏をお迎えし、外国人住民にとっての日本語教育の重要性や、当事者のライフステージに寄り添った学習支援の在り方についてご講演いただきました。

交流会では、外国人や日本人とやってみたいことや、外国人との社会づくり、日本語教育の役割について、様々な立場の参加者と意見を交わしました。

国際理解講座 アラブ首長国連邦編

12月13日(土)に、留学生のアンシーダさんを講師に迎え、国際理解講座アラブ首長国連邦編「Introduction to Arabic Calligraphy ~アラビア書道を体験してみよう~」を開催しました。

前半はアラブ首長国連邦の文化とアラビア書道についてのお話を伺い、後半はペンや竹ペンを使って、自分の名前をアラビア文字で書く練習をしました。最後に、講師が一人ひとりの名前をデザインくださったシートに色を塗り、世界に一つだけの作品が完成しました。



国際理解講座 ジャマイカ編

ジャマイカ出身で日向市のALTとして勤務されているリンダ・ゲイさんを講師に迎え、「ジャマイカ料理教室 yummyなチキンパンプキンスープを作ろう♪」を開催しました。20名の方にご参加いただき、ジャマイカの食文化と移民の歴史についてのお話を聞いた後、みんなでスープをつくりました。

「初めて見る食材などもあり、興味深かった」「面白かったです」といった感想をいただきました。



日本伝統文化体験講座(宮崎市)

日南市北郷町にある「NPO法人ごんはる」の谷口由利子さんを講師に迎え、「日本の苔の世界 ~苔テラリウムをつくらう~」を開催しました。美しい猪八重溪谷や日本に自生する苔についてのお話の後、ガラスボトルの中に苔・石・化粧砂を使って日本庭園をイメージしたテラリウムを作りました。(※猪八重溪谷は「日本の貴重なコケの森」に認定されています) 参加者からは「癒しの時間になりました」「猪八重溪谷に行ってみたいです」「もっと自分で作ってみたいです」などの声がありました。



上記講座の他、10月~2月に以下の講座、イベントも実施しました。

- ・国際ふれあいチャット後期(英語・中国語・韓国語)・外国人住民向け防災セミナー(宮崎市・三股町)
- ・国際理解講座ベトナム編(延岡市)・県国際交流員とのおしゃべり会(月4回・通年)・日本語教師向け研修
- ・日本語教育・多文化共生入門セミナー(えびの市・西都市・新富町・宮崎市)・地域日本語教室(西都市・国富町・新富町)
- ・外国人住民による日本語スピーチコンテスト

ちよっぴいとき

スタッフ 山崎 晴果

「ぼくたちの日本語は下手になっちゃった。」
地域日本語教室が始まる5分前、東京旅行から帰ってきたばかりの二人がこんなことを言った。

毎週この教室に通い、熱心に日本語を学んでいるオーストラリア人のAさんとカナダ人のBさん。カナダの友人が日本に遊びに来るとのことで、二人も東京へ旅行に行っていた。旅行の感想を聞いてみると、「東京は便利すぎて…」とAさんが話し始めた。

東京ではどこでも、なんでも英語が載っている。駅の中やレストランのメニュー、ホテルの案内。日本語を読まなくてもすべてわかる。東京の人は英語が得意で、どの店に行っても店員は英語ができるし、外国人の対応に慣れている。「日本語を使わなくても旅行できた。だから、ぼくたちの日本語は下手になっちゃった。」

「東京はすごいです！」と二人は笑っていた。



「じゃあ宮崎の生活はどうですか？」と尋ねると、「宮崎は、英語ならよく準備されているけど…家の近くのコンビニもレストランも、店員はあまり英語ができないから、ぼくは日本語で話す。最初は翻訳アプリを使っていたけど、最近は日本語で大丈夫になった。」「仕事の時、同僚はよく日本語を教えてくださいます。今日は『てびんだれた』を覚えました！宮崎にいて、日本語が上手になります。」と宮崎弁が大好きなBさんも答えてくれた。

二人の日本語力なら、旅行で日本語を話すことは難しくなかったはずだ。しかし、日本語を使わなくても困らない東京旅行の話より、日本語を使わなければならない宮崎の生活の話をする二人の表情は、とても生き生きしていた。

「宮崎に帰ってきたから、また日本語の勉強をがんばります。漢字は、ちょっとよだきーけど。」

東京では通じない日本語も、ここ宮崎で確実に身につけているようだ。

INFORMATION

「ひなたにほんごナビ」のご案内

「ひなたにほんごナビ」は宮崎県内で日本語を学びたい外国人住民や日本語学習を支援したい日本人住民のために情報を掲載するポータルサイトです。各市町村等で実施されている日本語講座や学習支援者養成講座などの取組みを掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

URL: <https://hinatanihongo.mif.or.jp/>



みやざき外国人サポートセンターからのお知らせ

みやざき外国人サポートセンターでは、県内在住の外国人のみなさんからの生活に関する相談を対面・電話・メール・オンライン(ZOOM)で受け付けています。詳しくは下記までお問合せください。

みやざき外国人サポートセンター

宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階
TEL:0985-41-5901 FAX:0985-41-5902
E-mail: support@mif.or.jp URL: <https://support.mif.or.jp>



JICAデスク宮崎からのお知らせ

1. JICA海外協力隊 2026年春募集

【応募資格】20歳～69歳までの日本国籍を持つ方
【応募期間】2026年2月27日(金)～4月15日(水)
詳細はWebサイトをチェック
<https://www.jica.go.jp/volunteer/>



2. 宮崎市でJICA海外協力隊 2026年春募集の説明会を開催します！

【日時】3月1日(日) 14:00～16:00
【場所】わくわくセンター レクチャールーム⑦
(〒880-0818宮崎県宮崎市錦本町4-5)
説明会のお申し込みは、こちら。



<https://forms.office.com/r/a95R10EiL5>

海外協力隊って？ 海外でどんな活動しているの？ など
JICA海外協力をまるごと知ることができる説明会です。
話を聞いてみるだけでもOK。お気軽にご参加ください。

JICAデスク宮崎

宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階
(公財)宮崎県国際交流協会内
TEL:0985-32-8457
E-mail: jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp
URL: <https://www.mif.or.jp/jica-miyazaki>

☆ 賛助会員 入会のご案内 ☆

会費：個人会員 年間 1口 2,000円 団体会員 年間 1口 10,000円

特典：協会発行の定期刊行物「ブラザニュース(日・英・中・韓)」・「South Wind」等の提供、協会開催事業の案内、協会開催講座の参加割引、協会HPから団体HPにリンク可能(希望団体のみ)



South Wind サウスウィンド
Mar.2026 Vol.108



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第108号 2026年3月発行

〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512

● URL <https://www.mif.or.jp/> ● E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしています。
当協会・本誌に対する意見・要望もお待ちしております。



開館時間：火～土 / 10:00～19:00
休館日：日・月・祝日・12月29日～1月3日